

【八橋地区】地方創生意見交換会（結果）

日時：平成 27 年 6 月 9 日（火） 19：30～21：30

場所：八橋地区公民館 研修室

| | |
|---------|--|
| 1. 参加者 | 参加者 36 人、職員 4 人（小松副町長、遠藤企画情報課長、山根、佐藤） |
| 2. 開会 | 小松副町長（あいさつ） 遠藤課長（資料の説明） |
| 3. 主な意見 | <p>●コトウラで育む</p> <ul style="list-style-type: none">・子育て環境の整備のなかに、子ども園へのアクセスや送迎バスなどの検討を行う。・町の基幹産業である農業について、学校教育で取り組む。・子育て中の家庭に助成をして、子どものころから音楽や映画などの芸術に触れる機会をつくる。・子どもころから、自分のまちへの愛情を持てるような教育を行っていく。・希望する保育園、子ども園に通えるような体制整備。・ひとりっこへの子育て支援も充実させる。・独身の方が多いので、婚活にも目を向けて積極的に取り組む。・公園がないので他町までいかなければならない。総合公園の公園跡地などに大きな公園を検討すれば町内に人が集まる。 <p>●コトウラで創る</p> <ul style="list-style-type: none">・しごとを創生するときには、頭を使うような仕事を創出していく。・地元の産業が発展しなければ、人口も増えない。・大学卒業者など若い世代が残れるような産業などを考えなければいけない。・高齢者が多くなるので、そういった方面での産業を誘致する。・企業誘致はどの市町村もしているので、既存企業を成長させ雇用を拡大させる。・農業の振興を図り後継者を確保する。・農業は魅力があっても収入が少ないので、若い人が参入できない。増えていく遊休農地を活用して第三セクター方式などの法人にすればさまざまな雇用が生まれる。・農業をいかにして発展させていくかを考えていく。・空き校舎の貸し出しなど起業支援を充実させれば、若い人も定住するのは。 <p>●コトウラで輝く</p> <ul style="list-style-type: none">・観光資源のひとつとして、県立博物館の誘致。・斎尾廃寺跡を復元して観光のひとつとしてはどうか。花菖蒲の生産者もおり、ウォーキングコースなどで観光客を誘致する。・既存の施設、空き家などを活用して、お年寄りのカフェ、集まれる場所を作ればお年寄りは喜ぶ。このようなことはすぐにできることなので、できること |

| | |
|--------|--|
| | <p>から始めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の宝は人であると考え。リピーターは人を求めてくることも多い。 ・しごと・ひと・しごととあわせ、「こころ」の創生も重要。 ・ゴミ対策など、サーフィン客の受け入れ態勢ができていない。 ・海の近くであることを活用して、釣堀の整備を行う。 ・さくらを観光資源とした PR ・大山滝へのアクセスの整備 <p>●コトウラに根づく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口が減少すれば、その時代にあった生活様式を検討する。 ・進学で県外に出て行くことが多いので、県内に看護学校などが増えれば若者は増えていく。 ・高規格道路により交通の便がよくなったので、住みやすいまちづくりを進める。 ・浦安駅前周辺に 13 箇所ある病院を活かした福祉のまちづくりを推進する。 ・公共交通に対する整備（ガーデンヒルズのバス停等）も住みやすいまちには必要。 ・卒業される時期に合わせて、U ターン、定住を促進するよう PR する。 |
| 4. その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・企業の外国進出など地方へひとの流れを作るには国の施策がこれまで以上に必要となるので、国に対して要望していくことが必要。 ・琴浦町のながいいところなのか考え、PR していく。 ・海が近いというよさはあるが、漁業権という問題があり、琴浦町のよさにつながっていない。 ・琴浦町の魅力が十分 PR できていないので、積極的に PR していく。 ・地域住民が自分の宝物を見つけ、それを町外へ発信していく。 ・市町村の枠にとらわれず、自治体が協力してまちづくりを進めていく。 ・町民一人ひとりがアイデアを出し、まちづくりをすすめていく。 ・県が行っている赤碕港湾での釣りの規制などやめるよう要望する。 ・人口減少がいつ頃危機的状況を迎えるのか、それに対してどのような取り組みをしていくのかを次の機会に示してほしい。 ・若者が定住できるように、子育ての補助、定住の補助を検討してはどうか。 ・特徴のある PR、焦点を絞った PR を行っていく。 ・町の顔となるホームページをもっと魅力あるものに変える。 ・結婚から生活、子育て、福祉までひとつの相談窓口で対応できるような体制整備。 |